

日本比較薬理学・毒性学会教育講演

第160回学術集会 (鹿児島大)	2017年 9月13日	脳炎症モデル動物での神経障害における膜結合性PGE2合成酵素-1の役割 松尾 由理:北陸大・薬・薬理
第159回学術集会 (日大)	2016年 9月6日	新薬開発と医療におけるモデリングの利用 樋坂 章博:千葉大学大学院薬学研究院 臨床薬理学研究室
第158回学術集会 (北里大)	2015年 9月7日	ヒト医薬品の開発時における新たな薬物相互作用ガイドラインの最終案について 斎藤 嘉朗:国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部
第155回学術集会 (東京大)	2013年 3月29日	温度感受性TRPチャネルによる温度受容・侵害受容 富永 真琴:自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター細胞生理部門
第156回学術集会 (岐阜大)	2013年 9月21日	腸管粘膜固有層の自然免疫細胞群の機能解析 植松 智:東大・医科研 国際粘膜ワクチン開発研究センター自然免疫制御分野
第154回学術集会 (岩手大)	2012年 9月15日	各種動物における腎糸球体濾過量の簡易測定法の開発と臨床学的応用 古濱 和久:岩手大
第153回学術集会 (感染研)	2012年 3月28日	動物からヒトへのトランスレーショナルリサーチ:薬物性QT延長症候群モデルおよび慢性持続性心房細動モデル 杉山 篤:東邦大学・医学部 薬理学講座
第152回学術集会 (大阪府大)	2011年 9月21日	インフラマソームによる炎症制御 小倉 裕範:奈良女子大学 生活環境学部 食物栄養学科
第151回学術集会 (農工大)	2011年 3月31日	心不全の基礎と先端医療 渡邊 哲:山形大学 医学部第一内科 (東日本大震災により中止)
第150回学術集会 (帯畜大)	2010年 9月17日	細胞膜における脂質分子のナノスケールレベルでの局在解析 藤田 秋一:名古屋大学 大学院医学系研究科 分子細胞学分野
第149回学術集会 (日獣大)	2010年 3月26日	リポソームテクノロジーを基盤とするDDSと免疫療法の構築 丸山 一雄:帝京大 薬学部 生物薬剤学教室 ASKファミリー分子によるストレス応答の制御と疾患 武田 弘資:東京大学大学院 薬学系研究科 細胞情報学教室
第147回学術集会 (日大)	2009年 4月4日	1.動脈硬化の分子機構:血管平滑筋細胞の分化調節の視点から 倉林 昌彦:群馬大学医学部 教授 2.Phytochemicalの機能性とその作用メカニズムガーリック由来の有機硫黄化合物の機能性を中心として 関 泰一郎:日本大学生物資源科学部農芸化学科 准教授
第145回学術集会 (麻布大)	2008年 3月28日	トキシコゲノミクス(Percellome Project)を基盤とした分子毒性学の展開の試み 菅野 純:国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター毒性部
第144回学術集会 (酪農大)	2007年 9月4日	プロスタノイドの循環器疾患病態形成における役割 牛首 文隆:旭川医科大学 薬理学講座 教授
第143回学術集会 (麻布大)	2007年 3月	主催シンポジウムで代替
第142回学術集会 (山口大)	2006年 9月23日	血管異常収縮(攣縮)の分子機構の解明~分子標的治療薬の開発を目指して~ 小林 誠:山口大学大学院・医学系研究科・生体機能分子制御学 教授
第141回学術集会 (日獣大)	2006年 3月21日	侵害受容回路における神経情報伝達と可塑性 鈴木 秀典:日本医科大学 基礎医学薬理学講座 教授
第140回学術集会 (鹿児島大)	2005年 9月30日	発育と老化に伴う味覚の変化 原田 秀逸:鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授
第139回学術集会 (理科研)	2005年 3月	主催シンポジウムで代替
第138回学術集会 (北大)	2004年 9月	ストレスの脳科学 吉岡 充弘:北海道大学・大学院医学研究科 教授